

②のとりあえず標準記録

なかなかスポーツも人生も、タイミングがあるものだ。

あの宇宙飛行士、ゼルゲイ・クリカレフ氏は、私が書いた翌日の新聞に「メドがたいていながた帰還用ロケットは、ドイツの支援により打ち上げられた」と出て、あの月ニコを発送する日に「無事帰還。祖国はなかった」と、新聞の1面に、カラー写真が載っていました。月ニコ読者の恐らく半分以上の方には、私の恐怖心がしほんで伝わった様様です。「帰ってきましたよ。大丈夫ですよ」と、私を元気づけてくれた。ありがとうございます。月ニコが届いた1週間後くらいに打ち上げてくれればよかったです。と思っははいけませんね。もう、思っは、たけれど。クリカレフ氏の奮もんであげたい。

さて、今月の「標準記録」に行きます。

「キャスコーナ」という名前を、私は生まれて初めて、1週間前に知っていました。もう、うれしくてヨダしがまた。

何かと言うと、道路と家の間には、必ず段差がある。そこで、車などがまわり入る所には、鉄板をかけた、段差を「坂」にする、その鉄板の商品名(?)なのです。



民家の駐車場の前には、30cm四方ほどの「キャスコーナ」を何枚も並べ、両脇を三角形の鉄板にして、ナメの出入りもスムーズにできるようにしている。

ここ1週間と調べた(?)ところでは、「ホームコーナ」「ハウスコーナ」という名前も2,3あったが、ほとんど「キャスコーナ」です。トラックがまわり入るような場所では、横長の丈夫な一枚鉄板がおかれ、おあかたクネッと痛んでいます。

当初は、段差の高さでマナマナだろうから、何千種類の大ケサな数字にすぐするものをつくらせていかんば、ているなあと思っは、まだ完結するほど気合は入、ていません。

色は茶色か鉄板色(?)で、柄は格子だったり、円模様。交線が入っているのは見たことありません。

今は、この30cm四方の鉄板と1か所だけ11ちばん並べているのはどこのお宅か?を探するのが楽しい。現在の最多記録は11枚。なんとここリ事務所の入り口が、そう。11枚は、こうある。それ以上だと、1枚鉄板にしなけれはいけませんよ、とか、私の興味をそとく常識なるものがあるのだらうか。

「キャスコーナ」の枚数を数えるために、クルマを停めてしまっほどのぞ、早く飽きてほしいな、と自分の「熱さ」を心配しているのだが、12枚を見るまでは死ぬません。

〔記録更新の傾向と対策〕

- ・住宅街を歩くと、宝庫です。小躍ります。
- ・地域によって枚数の統一感が感じられる。
- ・マンションの駐車場、高級住宅が穴。

なんだか12枚なんて、へのカッパで、40枚、50枚なんてのもありそうなきがしてきたな。

色、柄、大きさとも素頓狂なのがあ、たら教えてください。春は、他人の家の庭がなごませてくれます。4コーリッパもこうしてきれいに積えてあると、うきうきするなあ。ツツジの紅くて、芝肉前だと驚くなあ。塀の白いペイントがどぎつくな、てしまっほ。どかいボケは、もつと内側にも、ていたのがいいんぞないかい。急に、余計なお世話のひりごと。

そんなわけぞ、春は首がよく回ります。

ある日、欲しいなあと思うクルマが前から現れ、通り過ぎたので、後ろを振り向き、しばらくその姿態に見とれていたら、ふと思っは、百歩ほど歩くと、後ろを振り返ることにした。これが意外に恥づかしい。むすかしくないので、恥づかしい。長い直線であれは、速くを見る気分がいいのだが、曲がって10mほど歩いたところで振り返ると、こっちに向かう人がいる時は、失礼な気がしてしまう。自分の勝手ぞ、誰にも迷惑をかけることのない動作ぞ、特に意味もないわけだが、しかし、思っは以上に、感情の振れが出てしまうことに驚いた。人混みぞ、やると、それなりの意味付けがまきまきしてしまうぞ、ラクなのだが、後ろに1人か2人で、ずっと同方向を歩いている時は、け、こう勇気がいる。こんなことに、勇気が必要になるとは思っほなかつた。何度も続けることで、銀水たり、桶ききたり、オレほ何なんだ、とあれれこれれぞ緊張していく時が、何ともこの遊び(?)の独特なところだ。

後ろに若い女性1人の配置になつた時、私はついに断念した。とっつてもルールは守らねばならぬ。その場所には止ま、てしまつたのだ。そしてその女性に坂かゆることになった。それしなかつた。私の凡入たるところだ。いや、良識ある男の証明か。で、立ち止ま、た場所の足元に「キャスコーナ」があ、たのだ。そう、立ち止まるにも理由が必要だ、たわけぞ、私は、突然「興味の対象」ぞ、そこに見いせなわけは、ならなかつたのです。自分が納得して止まる必要があ、た。で、別の遊びを見つけたのだ、た。



ナルト